



楽しみながら学ぶ 株式投資帝王学

ユーロ通貨の行方に注目

欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁は、6月初めに追加の金融政策を発表しました。政策金利を0.25%から0.1%下げて過去最低の0.15%にして、民間銀行から預かる際の金利をマイナスにするマイナス金利政策を先進国として初めて導入しました。中央銀行に預けると金利を0.1%取られるのです。預けて金利を取られるなら貸出に回すだろう……。それによって国内に資金が循環して国内景気が上向くことを期待しての決定です。

しかし、日本のバブル崩壊後、いくら低金利にしても国内貸出は進まず反対に貸しはがし、貸し渋りで景気は悪化したのです。日本の銀行はいつ倒産するか知れない企業に貸し出すより、もっと安全な米国債の購入に走りました。そのうえ輸出産業も米国のFRBのQE1からQE3までの量的緩和策でドル紙幣がどんどん刷られてドルの価値が下がり、そのせいで円高になってソニー、パナソニック、シャープがガタガタになりました。

米国FRBの出口戦略はドル還流策なので、ユーロ諸国のマイナス金利政策はEU諸国にはお金は循環せず、ますます米国債が買われていきます、その結果がNYダウの新高値です。このままいくとEU諸国はデフレ傾向が強まり不況になってしまいます。

最後の手段として日本と同じように物価高目標を設定しての量的緩和策でのデフレ克服が視野に入ってきます。ユーロ紙幣をどんどん

刷って、インフレにする政策しかないのです。しかしドイツはインフレに対するトラウマがあります。戦前ドイツ国民は給料をもらって家に帰ってくる間に、パンの急激な値上がりで、買えない状態になったとか・・・という、ものすごいインフレ体験をしているのです。ドイツが中心のEUは量的緩和には慎重姿勢でなかなか踏み込めないのが実情です。

いま世界的にみても、アジアの緊張、ウクライナの緊張、イラク情勢の混乱で有事のドル高が基調です。ドル還流策もドル高要因です。またイラク情勢から原油高もドル高要因です。円の異次元緩和は円安化です。円対ドルではドル高＝円安化です。ユーロ対円は、円の増刷で円安＝ユーロ高の可能性が高く、EUのデフレ克服の政策が出るまで円安＝ユーロ高で推移していくと考えられます、ドル対ユーロはドル還流策で、ユーロは海外流出で、ドル高＝ユーロ安の可能性もあります。

ウクライナの情勢とイラク情勢で、原油、天然ガス高になり、ユーロ安は原油高に対するヘッジが必要です。また円安＝ユーロ高は、日本と競合する企業にヘッジされます。原油高と円安の両方のヘッジとして日本の省エネ技術が買われてくるかもしれません。

この記事を読んで、株式投資を成功させよう！！



平成26年6月20日
(株式講演家 三木文佑)

株式講演会の出張講演致します。
少人数でも喜んで。
090-5154-0515

株式投資帝王学 毎月第3土曜日 16時～21時

いよいよ 2014.10.18 (土) 開講

小人数システムですから、お早目にお申込み下さい。